


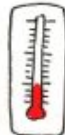




お花の栽培シリーズ「ハギ」

2009年2月	如月(きさらぎ)・令月(れいげつ)・梅月(むめづき)・梅見月(むめみづき)・初花月(はつはなつき)・雪消月(ゆききえつき)・仲月(ちゅうしゅん)	●春に向けての準備期間
立春がすぎると気候にも変化が始まり、自然界には「春」がやってきます。凍っていた地面がゆるんで、土がやわらかくなるこの時期には、本格的な春に向けての準備をしましょう。		
庭木の作業	・凍っていた地面がゆるむと、穴を掘り元肥を入れて準備する。冬囲いをとる。バラやフジなどの花木では、整枝剪定の時期です。	
草花の作業	・1月に掘り起こした土に堆肥や有機配合肥料を全面にまきましょう。	

今月の誕生花	ウメ・サクラソウ・スノードロップ・フクジュソウ	
今月の花	サクラソウ 花言葉 / 希望、青春の始まりと悲しみ	
	春、早く咲くサクラソウには、『希望』という花言葉がぴったりです。 英名のプリムローズは、ギリシャ神話では花の女神フローラの息子パラリソスのことです。パラリソスはとても美しい青年でしたが、恋人のニンフに失恋してからはすっかりやつれ、ついには死んでしまいました。フローラは、そんなわが子を不憫に思って、春一番に咲くサクラソウの花の姿に変えたといわれています。 この花は魔女や妖精の害を防ぐといわれている土地もあり、古くイギリスでは、復活祭の教会の装飾にサクラソウが使われていました。	
	またスコットランドでは、サクラソウを球形に束ね、真ん中に6弁の白いアネモネを挿した花束を作る習慣があります。マン島では5月1日の前夜にこの花の小さい束を家や牛小屋の戸口におくならわしがあります。 イギリスでは他にも、この花のあたまを煎じて飲むと、不眠症にかからないとか、きこりが山で小さな傷をつけたときにこの草をあてがうと、そのあとの手当ては不要だという話もあります。	
	原産地はヨーロッパ。サクラソウ科サクラソウ属の多年草。草丈は10～40cm。開花時期は12～5月。最盛期は12～3月。葉の形状は、多数混生、長さ4～10cm、白長毛が多い。花色は、赤、オレンジ、黄、ピンク、白。英名プリムローズ(Primrose)。別名 プリムラ、トキワザクラ、ケシヨウザクラ。学名 Primula spp.	
サクラソウの花を お茶にして飲むと、うつ病や不眠症が治るといわれています。またエディブルフラワーとして、サラダの材料に用いられたりもします。料理の得意な方に贈ったら、喜ばれるかもしれません。		

<p>日当たり</p>  <p>日なた</p>	<p>水やり</p>  <p>ふいふう</p>	<p>気温</p>  <p>15~25℃</p>	<p>草丈</p>  <p>2~2.5m</p>	<p>花色</p> 
--	--	---	---	--

ハギは放任しておくとかかなりの大株になります。鉢植えなどで、丈を低く抑えたい株は、毎年剪定をします。剪定の時期は12月から翌2月です。地際から5cmほどを残して、地上部を全部刈り取ります。

ふやし方には、次の4通りの方法があります。

- (1) 3月に、前年伸びた生枝を20cmほど切って挿し木にする方法。
- (2) 6月下旬~7月上旬に新梢を10cmに切って挿し木にする方法。
- ※(1)(2)いずれも、挿し床は赤玉土か鹿沼土がよいでしょう。
- (3) 株分けでふやす方法。11月~翌2月に作業をします。
- (4) 種をまく方法。10月に実を取って、なかの種を翌年の春にまきます。種の皮がかたいので、まく前に熱い湯のなかにしばらくつけるとよく発芽します。

鉢植えの用土には、赤玉土7+腐葉土3を混ぜた、水はけと保水性のよいものが適しています。露地植えにする場合は、水はけのよい場所に、堆肥などを充分入れて、やや高めに植えつけます。ハギは日本の秋を代表する花で、秋の七草にも数えられています。茎は基部のみが木化し、上部は草状なので、垂れ下がる樹形になります。長い枝が風になびく様は情緒があります。



●剪定のやり方



12月~翌2月までに
全て刈り取る!!

株を低く抑えるためには、毎年剪定を行う。
小型のヤクシマハギでは、剪定の必要はない。

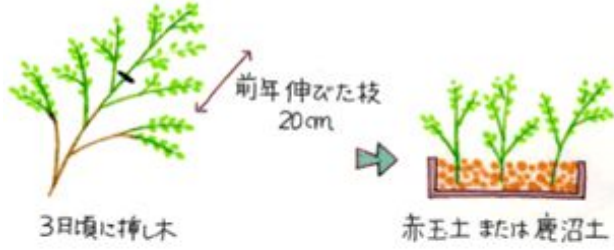
●植え方

[鉢植えをする場合] [露地植えの場合]



●ふやし方

【挿し木をする】3月から6月下旬～7月上旬のどちらかに行う 【株分けをする】



【種をまく】

10月に実を取って翌年の春にまく。種がかたいため熱い湯につけるとよく発芽する。



●年間スケジュール

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
状況	花期											
置き場	屋外の日当たりのよい場所						屋外の半日陰/露地栽培は日よけをする			屋外の日当たりのよい場所		
水やり	表土が乾いたら与える(0～5日1回)		表土が乾いたら与える(2～3日1回)				表土が乾いたら与える(1日1回)		表土が乾いたら与える(2～3日1回)		表土が乾いたら与える(3～5日1回)	
肥料	◎ 鶏フンや油かすを根元周辺に2握り与える						◎ 鶏フンや油かすを根元周辺に2握り与える					
病虫害							アブラムシがつきやすいので、風通しをよくする 発生した場合はマランノ乳剤を散布する					
作業	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div> <p>植えつけ</p> <p>剪定</p> <p>植え替え/株分け</p> <p>挿し木</p> </div> <div> <p>挿し木</p> </div> </div>											